

従属節内の丁寧体と非丁寧体

—接続助詞に接続する文体について—

嶺 田 明 美

1. はじめに

日本語の述語の形式には「デアル体」「ダ体」「デスマス体」「デゴザイマス体」などがある。これらの文体は、芳賀 (1962)、メイナード (1991)、野田 (1998)、庵ほか (2001) などにあるように、文章や談話では一定に保たれるのが原則ではあるが、実際には混用が見られる。

単独の文においても、文体の制約があり、たとえば、仁田 (1991) が示すように、「丁寧体を表す形式を伝聞形式の中に入れて、第三者の丁寧の態度を表すこと (例 *彼が行キマスソウデス)」はできないと述べている。しかし、実際には、次のような例が認められる。

例 1) それが食の時間というのがございまして、1 年に 40 日ほどありますそうですけれども、これのときには電源が、電池が消耗してしまうわけでございます (国会会議録 1981)

一方で、複文の主節の文体が丁寧体¹の場合、従属節の文体は丁寧体と非丁寧体のどちらが用いられるかは、さまざまな条件によって決まるが、実際にはいろいろな文体が現れる。たとえば、メイナード (1991) が、「文中の従属節は、ていねい体をとらないが、一例えば“友達がくれました本”と言わず、“友達がくれた本”という」と述べている。名詞に接続する従属節でも、聞き手配慮を必要としない文は、ふつう、丁寧体をとらない。しかし、例 2・例 3 のように丁寧体が現れることもある。

例 2) 社会意識もこれを争闘的な方向に向けます時には、きわめて古い階級割拠的な封建思想となるのでありまして、(高良とみ『新体制運動へ』ドメス出版 2002)

例 3) 急行ご利用のお客様は降りましたホーム、向かい側に参ります電車²にお乗換えください。(京王電鉄車内アナウンス筆者採取 2018.9)

三尾 (1942) は、小説と戯曲の主節の文末が「ダ体」と「デス体」の会話部分を取り出して、従属節内の接続助詞に続く文体の調査を行い、その「丁寧化百分率」を出している。これを現在の話しことば・書きことばと照らし合わせると、丁寧体の割合に変化が見られる。本論では、三尾 (1942) の結果を踏まえ、現代語の書きことばと比較して、複文の従属節で接続詞に続く文体がどのようなになっているかを記述する。

1 本論では、便宜上、「デアル体」「ダ体」を非丁寧体、「デスマス体」「ゴザイマス体」を丁寧体と呼ぶことにする。

2 いわゆる丁寧語 (この場合は「参る」) の場合は、聞き手配慮の意識から非丁寧体は用いにくい。そのため「参ります電車」となる。

2. 方 法

現代書きことばの用例は、国立国語研究所構築の「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(BCCWJ)から収集した。キーとなる接続助詞の前方共起を「助動詞」「動詞」「形容詞」、後方共起を5語以内に語彙素読み「デス」「マス」、前後20語という条件で検索した。コアデータ以外からも採集したため対象とならないデータは除外した。前方・後方共起するそれぞれの語の活用形は区別していない。また、著者、翻訳本の場合は翻訳者、複数の著者の場合はその中の一人でも生年代が1920年より前のデータ、教科書と韻文、方言色の強いデータ、古典文学の翻訳は対象外³とした。収集は2018年9月～11月に行った。

3. 三尾(1942)の調査結果(以下、「三尾データ」と呼ぶ)について

山本有三『女親』などの「戯曲」13作品から統計を取り、接続助詞にどれぐらいの割合で「です体」が用いられているかを表1のように示している。「半終止」とは文の終止に準ずるもの(「～でしてね」のような形)でデス体の文ではほとんど常にデス体になる形とし、「その他」とはほとんど常にダ体で丁寧さの表現には関係しないものとして、これらを除いて計算している。つまり、百分率の母数は出現総数ではなく、出現総数から「半終止・その他」を除いた数である。この母数を表には付加した。本論では、「半終止・その他」については「文末詞」的な用法と考えることにする。また、「もんですから」「のに」には具体的な回数は示されていない。

表1 三尾データ

接続助詞	出現総数	「だ体」に附いた回数	「です体」に附いた回数	母数	「です体」形に付いた場合の百分率(%)	半終止その他の用法
が	327	13	223	236	94.5	91
けれど	120	13	83	96	86	24
もんですから	－	－	－	－	76	－
から	550	63	169	232	73	318
し	52	20	28	48	58	4
ので	103	56	22	78	28	25
のに	－	－	－	－	20	－
と	112	102	8	110	7.3	2
ら	177	160	10	170	6	7

三尾(1942)のいう「だ体」は次のようなものである。

3 生年代は、どこから現代語とするかは問題になると思うが、執筆が1940年代以降になるであろうと考えて、ここでは1920年とした。三尾(1942)は教科書も調査しているが、これとは別に小説と戯曲を調査している。本稿では小説・戯曲との比較を行うため、教科書は除外した。古典作品は、敬語の訳し方が文体の選び方に影響する場合があるため除外した。

「話言葉の敬体」は「です体」と「ございます体」に分かれます。「だ体」がていねいになれば「です体」になり、さらにていねいになれば「ございます体」になるものです。(p.27)

ぞんざいな、したがって目下かあるいは親しい友人どうしの間で用いられる話言葉の一体系で、単に「だ」で終わる文というだけのものではないのです。「だ体」ではあらゆる言葉や語法や話す態度までひとつながりの、全体が調子の合った一体系をなしているものです。書言葉の「である体」の「である」だけを「だ」にすりかえたとして、それですぐに話言葉の言葉づかいとしての「だ体」になったとはいえません。(p.23)

つまり、接続助詞の形だけの問題ではなく、文体は全体に関わるものであることがわかる。ただし、表の「だ体」とは、動詞・形容詞・助動詞の非丁寧体を指している。

BCCWJは格納されている出版物のジャンルが三尾データとは一致しないが、現代の使用実態との比較対象はできると考え、以下、述べることにする。

4. 結 果

丁寧体と非丁寧体にそれぞれの接続助詞が接続した実数と割合を以下の表に示した。表内の割合は％を示す。助動詞と動詞の数については、BCCWJの検索の都合上⁴、区別していない。三尾データでは文末詞を除いているので、本論でもそれに従う。ただし、文末詞を含まない場合と含む場合とでそれぞれの割合がカラム以外は1%以下の差でしかないので表には示していないが、この点については後に述べる。なお、ゴザイマス⁵の使用例は国会会議録に多く、結果に影響する場合は、その都度述べることにする。

4-1. ガ (三尾データ 94.5%)

ガは厳密に言えば、逆接・対比と前置きの用法があるが、表2では区別していない。

デスマス体は、出版物のジャンルもさまざまであるが、ゴザイマスの278件のすべてが国会会議録であり偏りが見られた。ただし、国会会議録がすべてゴザイマス体を用いるわけではなく、例4のようにデス体、例5のように非丁寧体を用いることもあるが、数は多くない。278件の国会会議録の中で、主節がデスの例は以下の例6の1件だけで、そのほかの277件はマスまたはゴザイマスが用いられていた。国会会議録の文体ではデス体よりもゴザイマス体が選ばれる傾向にあると言える。国会会議録の278件を除いても、主節が丁寧体の文の従属節は95.8%で丁寧体が使われており、1940年ごろの使われ方と変わっていないと言える。

例4) その点を聞きまして、この問題さらにお伺いしたいことがあるわけですが、一応それについて伺っておきます (国会会議録 1978)

例5) エー・ピー・オー・ジャパンの場合、クーリングオフ期間が四日であったが、二十万人の被害者が出ました (国会会議録 1976)

例6) これはこれから委員会で十分おやりになることでございましょうが、ただ見るというのは結局だめでして、手で動かさなくてはだめです (国会会議録 1981)

4 BCCWJでは、いわゆる「テ形」の動詞（タラの例：見てみたら、テシマウ、テモラウなど）や一部コトニナル・トイウなどが助動詞扱いされていることがあることから、まとめてダ体として扱うことにした。

5 ゴザイマスは、アル（例：本がゴザイマス）の場合はゴザルに丁寧体のマスが接続した形、デスの丁寧語（例：「本でゴザイマス」）の場合はゴザイマスとして扱った。

表 2 ガ

		合計			文末詞 実数
		実数	実数	割合 (%)	
丁寧体	デス	4129	8243	95.8	0
	マス	3836			1
	ゴザイマス	278			0
非 丁寧体	助動詞・動詞	338	360	4.2	7
	形容詞	22			0
合 計			8603	100.0	

4-2. ケレド類（三尾データ 86%）

ケレド類（表 3）とは、ケド、ケレド、ケドモ、ケレドモを指す。ガと同様に、前置きの用法と逆接の用法とを区別していない。

表 3 で使われたゴザイマス 270 件の内、1 件は一般書籍の事例だが、残りの 269 件は国会会議録である。そこで、この 269 件を除いて考えると、全体に占める丁寧体の割合は 52.7% になる。三尾データよりも、30% ほど減っているが、半数程度は丁寧体が使われている。

表 3 ケレド類

		合計			文末詞 実数
		実数	実数	割合 (%)	
丁寧体	デス	751	1670	57.1	14
	マス	649			1
	ゴザイマス	270			0
非 丁寧体	助動詞・動詞	1030	1258	42.9	20
	形容詞	228			0
合 計			2929	100.0	

次に、ケレド類を分けて見てみる。

ケレドモ（表 4）は丁寧体の割合が 95% で、ガと変わらない。ただし、ケレドモの合計 678 件のうち、653 件は国会会議録である。これらの文体の内訳は、デス 94・マス 301・ゴザイマス 236（国会会議録に占める丁寧体の割合 96.6%）、助動詞 16・動詞 5・形容詞 1（同ダ体の割合 3.4%）で、国会会議録は丁寧体がよく使われ、またガと同じようにゴザイマスの頻度が高いので、これがケレドモの丁寧体の頻度の全体へ影響していると考えられる。そこで、残りの 25 件（書籍 21、Yahoo! 4）を見てみると、デス 8・マス 5・ゴザイマス 1（56.0%）、助動詞 7・動詞 2・形容詞 2（44.0%）で、一般的な書籍等では、やや丁寧体が使われる傾向にあると言えよう。

表4 ケレドモ

		合計			文末詞 実数
		実数	実数	割合	
丁寧体	デス	102	645	95.1 (56.0)	2
	マス	306			0
	ゴザイマス	237			0
非 丁寧体	助動詞・動詞	30	33	4.9 (44.0)	0
	形容詞	3			0
合 計			678	100.0	

() は書籍と Yahoo! の結果

ケレド（表5）は67%が丁寧体である。ゴザイマス（国会議事録33件）を除いても丁寧体は65%である。ケレドモとケレドは書きことばでは60%前後が丁寧体で使われ、ガに続いて頻度が高い。

表5 ケレド

		合計			文末詞 実数
		実数	実数	割合	
丁寧体	デス	115	280	67.8	1
	マス	132			0
	ゴザイマス	33			0
非 丁寧体	助動詞・動詞	106	133	32.2	1
	形容詞	27			0
合 計			413	100.0	

ケド（表6）は、丁寧体の割合が40%で、ほかのケレド類と比較すると少ない。ケドが使われたレジスターを見ると、一般書籍331件、新聞6件、広報2件、国会会議録1件（合計340件）、書籍等よりは話しことば的な要素があるヤフーのブログと「知恵袋」が全体の1823件のうちの1483件で80%を占めている。書籍等の中でも、たとえば新聞であっても、例7のように話しことば的な文である。しかもケレドモ・ケレドよりも文体が低いと考えられるため、その文体の低さに合わせた結果、丁寧体の頻度がケレドモ・ケレドよりも低いのではないかと考えられる。

例7) 理由は背中全体の張り。「局所的な痛みではないけど、大丈夫ですよ」と、心配がないことを強調した（河北新報朝刊2005/3/11）

表6 ケド

		合計			文末詞
		実数	実数	割合 (%)	
丁寧体	デス	529	737	40.4	11
	マス	208			1
	ゴザイマス	0			0
非丁寧体	助動詞・動詞	888	1086	59.6	19
	形容詞	198			0
合 計			1823	100.0	

ケドモ（表7）は書きことばでは使われにくいのか、用例数が少ないため、はっきりとした傾向はわからない。

表7 ケドモ

		合計			文末詞 実数
		実数	実数	割合 (%)	
丁寧体	デス	5	8	57.1	0
	マス	3			0
	ゴザイマス	0			0
非丁寧体	助動詞・動詞	6	6	42.9	0
	形容詞	0			0
合 計			14	100.0	

ケレド類について三尾（1942）は、同じ逆接の用法のガと比較して、ダ体に接続しても「無遠慮な感じを起させない」ため、ケレド類は非丁寧体がガよりも多いと述べているとおり、ケレド類はガよりも丁寧度は低い結果であった。

4-3. ノニ（三尾データ 20%）

ノニ（表8）はほとんど丁寧体は用いられず、2件（例8・例9）だけであった。

例8)「せっかくお得なセットを用意してますのに、なぜでしょうか」（田中良成『超貧乏旅』扶桑社 1996）

例9) 2月前に、知り合い○新聞の配達員に2万貸しましたのに返してくれません（Yahoo! 知恵袋 2005）

検索の範囲を広げ、配慮を求められる場面として主節が謝罪文の場合を BCCWJ の文字列検索で「のに%申し訳ありません」「のに%申し訳ない」（%は任意の文字列）で検索すると合計で 27 件あったが、すべて例 10～12 のようにダ体であった。ただし、ダ体ではあるが謙譲語や尊敬語が用いられる例が 5 件（例 11・12）、セッカクやモラウ・クレルなどの配慮を示す語とともに用いられる例が 3

件（例13）あり、これにより配慮を示しているようである。

例10) 始めたばかりなのに、本当に申し訳ありません（Yahoo! ブログ）

例11) 「みなさん、せっかくお集まり頂いたのに、本当に申し訳ありません。この穴埋めは、かならずせて頂きますからー」（七海花音『約束の少年』小学館 2005）

例12) 転職して1ヶ月ですが、社長も気さくにお声を掛けてくださっているのに何だか申し訳ない気持ちになります。（Yahoo! 知恵袋 2005）

例13) 「あなたに、せっかく日本へ来てもらったのに、考えたほど仕事はいらなくて、申し訳ない気持ちだし」（逢坂剛『熱き血の誇り』新潮社 2002）

以上のような謝罪の場面であっても、従属節では丁寧体が用いられないことから、ノニは全体としても丁寧体が用いられることの少ない接続助詞であると言える。

表8 ノニ

		合計			文末詞
		実数	実数	割合 (%)	
丁寧体	デス	0	2	0.2	0
	マス	2			0
	ゴザイマス	0			0
非丁寧体	助動詞・動詞	700	821	99.8	147
	形容詞	121			87
合 計			823	100.0	

4-4. カラ（三尾データ 73%）／モンデスカラ（三尾データ 76%）

カラはモンデスカラとモンダカラを除いた数である（表9）。ゴザイマス 35 件の内の 32 件を占める国会会議録を除いても丁寧体の割合は 37.1%であり、値はほぼ変わらない。三尾データでは 73%が丁寧体であったが、BCCWJ の調査結果では、その半分程度しかなく、現代では丁寧体は減っている結果になったが、それでも今回調査した接続助詞の中では、丁寧体の割合がガ、ケレド類に続いて3番目に多い。

また、文末詞に含めたが、ダ体の直後にカラデスが接続する文が多く（例14）、丁寧体の直後にカラデスが接続する文は5件しかないため（例15）、接続助詞カラの直後に丁寧体があると従属節はダ体を選ばれる傾向があることがわかった。

例14) 母が幼い頃から抱いていた夢を娘の私に託したからでした（田部井昌子『資産ゼロから大成功する「魔法の粉」の使い方』講談社 2003）

例15) スーパーファンド法でしたか、一千八、これは物質の規定の仕方がありますからですけども、これも日本に比べればはるかに多いという数字を出しており（第154回国会会議録 2002）

表9 カラ

		合計			文末詞 実数
		実数	実数	割合 (%)	
丁寧体	デス	928	1610	37.6	8
	マス	647			6
	ゴザイマス	35			1
非 丁寧体	助動詞・動詞	2279	2676	62.4	5628
	形容詞	397			496
合 計			4286	100.0	

モンデスカラ・モンダカラは、三尾（1942）では、「それ自身が文体性を持っている」ため、独立した接続助詞であると考えられるべきであるとしている。また、「東京の話言葉では『ので』がわりあいすくなくて、『もんだから』『もんですから』の方がずっと多いよう」で、改まった場面では避けられると述べている。後に述べるノデよりも用例数は少なく、書きことば的ではないと思われるが、現代の話しことばで多用されるかは現時点では不明である。三尾データのモンデスカラは76%で、モンダカラより多いという結果であるが、本調査でも84%が丁寧体であった（表10）。

表10 モンデスカラ／モンダカラ

		実数	割合 (%)
丁寧体	モンデスカラ	42	84.0
非丁寧体	モンダカラ	8	16.0
合 計		50	100.0

4-5. ノデ

ノデ（表11）はカラと同様に原因理由を表すが、カラよりも丁寧体の割合が18%程度低い。丁寧体の割合が低い要因として、ガとケレド類と同様に、カラよりもノデのほうが「無遠慮な感じを起させない」ことが考えられる。また、形容詞・形容詞的な活用をするナイ・タイ・ラシイなどの助動詞や、～ヤスイ・～ニクイなどの接辞的な形容詞（以上をまとめて形容詞類と呼ぶ）が従属節にある場合、デスを介さずノデに結びつきやすいことも理由として考えられる。形容詞類が従属節の接続助詞の前にある場合、形容詞類＋デス＋カラは406件（33.4%）（例16・例17）、形容詞類ダ体＋カラ808件（66.6%）であった。ノデは、形容詞類＋デス＋ノデの例はなく、形容詞類ダ体＋ノデが3807件であった。ノデは形容詞類を直前に接続させる場合は丁寧体をとらないため、この分も非丁寧体の割合がカラよりも多い要因と言える。

例16) 進行は個人差が大きいですから、予測は困難です（Yahoo! 知恵袋 2005）

例17) そのときは防塵マスクはなかったですから、地獄でしたよ（鎌田慧『ハッピー・ニッポンの終り』すずさわ書店 1987）

表 11 ノデ

		合計			文末詞
		実数	実数	割合 (%)	
丁寧体	デス	538	2951	19.6	0
	マス	2241			3
	ゴザイマス	172			0
非丁寧体	助動詞・動詞	10394	12120	80.4	9
	形容詞	1726			0
合 計			15071	100.0	

4-6. シ（三尾データ 58%）

シ（表 12）は丁寧体が 30%ほどで、これも三尾データと比較すると半分程度である。三尾（1942）では、シが接続した用言は叙述を中止するだけで、次にくる用言に対して修飾的な働きはせず、句と句との接続部で意義上の連絡が少なければ、一層丁寧体になりやすいと述べている。シは、並列の用法と、並列的ではあるが従属節の根拠を述べるような用法があり、どちらかと言えば並列の用法のほうが独立性があり、丁寧体になりやすいと言える。しかし、BCCWJ には、並列用法（例 18・例 19）でも根拠の用法（例 20・例 21）でも丁寧体と非丁寧体の両方がある。並列の用法のほうが丁寧体を取りやすいかどうかは、並列用法か根拠の用法かがはっきりしない文が多くあり、ここでは示すことができなかった。

例 18) 両家の装いがかけ離れていると写真にも残りますししこりも残ります（Yahoo! 知恵袋 2005）

例 19) ひとつのことに打ち込んでいる人とか見るとすごいなーって感心しちゃうし、あこがれちゃいます（Yahoo! ブログ 2008）

例 20) 先送りをしてくれるのは、その人の好意だと思いますし、うれしくはありますが（Yahoo! 知恵袋 2005）

例 21) 打ちあわせもすんだことだし、そろそろ失礼しましょう（友野詳『ルナル・サーガ』角川書店 1992）

表 12 シ

		合計			文末詞
		実数	実数	割合 (%)	
丁寧体	デス	154	469	33.5	3
	マス	302			6
	ゴザイマス	13			0
非丁寧体	助動詞・動詞	665	931	66.5	19
	形容詞	266			2
合 計			1400	100.0	

4-7. タラ、ト（三尾データそれぞれ6%, 7.3%）（表13・14）

三尾データではタラはラとして数えられているが、「ラは用言の過去形だけに附く」と述べているので、ここではタラ（ダラ）とする（表13）。

条件を示すタラ、トとも丁寧体はそれぞれ8.6%, 2.8%で少ない。庵ほか（2001）では、「主節が聞き手に対する丁寧な働きかけ（命令、勧誘など）の場合は従属節では丁寧体を使わない方が自然である」と述べている。BCCWJで検索したタラが使われた例には「Yahoo! 知恵袋」で閲覧者に依頼や回答を求めたりアドバイスをする投稿が多い（例22～例24）。これらの「働きかけ」をする文でも丁寧体が用いられることはあるが多くはなく、全体としては非丁寧体が用いられている。

例22) <依頼文>資格を取得された方でお勤めの本などがありましたら、教えてくださいでしょうか（Yahoo! 知恵袋 2005）

例23) <回答求め>今更ながら、他の病院にかえるって言うのも、難しい状況です。皆さんでしたら、どうしますか？（Yahoo! 知恵袋 2005）

例24) <アドバイス>においが危険でしたら捨てましょう（Yahoo! 知恵袋 2005）

表13 タラ（ダラ）

		合計			文末詞
		実数	実数	割合（%）	
丁寧体	デシ	405	981	8.6	1
	マシ	576			1
	ゴザイ	0			0
非丁寧体	助動詞・動詞	10298	10481	91.4	273
	形容詞	183			2
合 計			11462	100.0	

ト（表14）は2.8%が丁寧体で、三尾データの半分程度である。条件を表す接続助詞のタラやトは、ほとんどの文で非丁寧体が使われるが、タラのほうに丁寧体がやや多かった。

表14 ト

		合計			文末詞
		実数	実数	割合（%）	
丁寧体	デス	76	431	2.8	0
	マス	353			0
	ゴザイマス	2			0
非丁寧体	助動詞・動詞	14057	14713	97.2	20
	形容詞	656			2
合 計			15144	100.0	

5. イ形容詞への接続について

イ形容詞にデスが接続することについて、三尾（1942）はデショウへの接続のほかは完全に熟しきってはおらず、ダ体のままで使われる傾向があること、ゴザイマス体は熟しているため、文の丁寧さが増すに従い、ダ体から「一足とびに」ゴザイマス体へ変わりやすいことを述べている。そこで、形容詞類に、どの程度デスが接続するかを接続助詞毎の割合を出し、表 15 に示した。なお、ノダ文<例：その定義は長いのですけれども、るる書いてあります（国会会議録 1998）>は除く。

表 15 イ形容詞への接続

接続助詞	形容詞類＋デス＋接続助詞		形容詞類＋ダ体＋接続助詞		合計	従属節の丁寧体の割合（％） （ ）は除・国会会議録
	実数	割合（％）	実数	割合（％）		
ガ	172	77.1	51	22.9	223	95.8
ケレドモ	2	15.4	11	84.6	13	95.1 (56.0)
ケレド	107	24.8	324	75.2	431	67.8
カラ	406	33.4	808	66.6	1214	37.6
ノデ	0	0.0	3807	100.0	3807	19.6
タラ	0	0.0	383	100.0	383	8.6
合計	687	11.3	5384	88.7	6071	

現代語では形容詞類にデスが接続する文が全体では 11.3％で、それほど多くはない。しかし、従属節の丁寧体の割合が 95.8％と高い接続助詞ガは、形容詞類も 77％が丁寧体で用いられていることがわかる。ケレドモ、ケレドなどは従属節の丁寧体が非丁寧体よりも多い接続助詞だが、これらは形容詞類の 15～25％程度がデスを伴っている。カラは従属節の丁寧体は 37％であり高くはないが、形容詞類の 33％がデスを伴い、ケレドモ・ケレドよりも高い。これは 4-5 で述べた通り、ケレドモ・ケレドのほうがダ体に接続してもガよりも「無遠慮な感じを起させない」ため、形容詞類でも同様のことが起こっていると思われる。従属節の丁寧体の割合が低いノデとタラは形容詞類にはデスは接続する例はなかった。つまり、従属節の丁寧体の割合が高いことと、形容詞類がデスに接続することが関連していると言える。

6. 従属度と丁寧体について

4-6 で、三尾（1942）の句と句との接続部で意義上の連絡が少なければ、一層丁寧体になりやすいことを記した。また、野田（1998）は、従属文について、従属度の低いものは中立形⁶にならないことも多いが、従属度の高い文は中立形になりやすいと述べている。これらをもとに考えると、ガは 95％が丁寧体をとるため従属度が弱く、ノニは 0.2％が丁寧体で従属度が高い接続助詞であると言える。

7. 文末詞的な用法と丁寧体について

三尾（1942）は、「半終止」の文は「デス体の文ではほとんどつねに『デス体』形で半終止となる」

6 ここで述べている「中立形」とは「ていねいさ非考慮の機能をもつ非デスマス形」のことで、「ていねいさ非考慮」とは、「これから {会う／＊会います} 人」のようなダ体と丁寧体の対比がないことである。

としている。これについては、丁寧体の割合が高いガの文末詞的な用法が8件あるが、7件は非丁寧体で、丁寧体を取りやすい接続助詞でも、非丁寧体がとられることがわかった。ほかの接続助詞も非丁寧体が用いられており、全体としては非丁寧体が多く使われている。

8. まとめ

全体の丁寧体の割合を表16にまとめる。

表16 まとめ

接続助詞	BCCWJ		三尾データ	
	実数	割合	実数	割合
ガ	8243	95.8	223	94.5
ケレドモ	645	95.1	83	86
除・会議録	14	56.1		
ケレド	280	67.8		
ケドモ	8	57.1		
ケド	737	40.4		
カラ	1610	37.6	169	73
シ	469	33.5	28	58
ノデ	2951	19.6	22	28
タラ	981	8.6	10	6
ト	431	2.8	8	7.3
ノニ	2	0.2	－	20

井上（1999）が指摘するように、敬語の使用意識が素材敬語から対者敬語に変化している。しかし、三尾データと比較すると、ガとタラは微増だが、全体的に対者敬語としての丁寧体の割合が下がっていることが示された。従属節の接続助詞に前接する素材敬語の使用頻度を、例2、例3のような名詞などに接続する文と、あわせて調査し今後述べたい。

【参考文献】

- 庵功雄ほか（2001）「§38. 文体」白川博之監修『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
- 井上史雄（1999）『敬語はこわくない』講談社
- 仁田義雄（1991）「言表態度の要素としての＜丁寧さ＞」『日本語学』10 明治書院
- 野田尚史（1998）『『ていねいさ』からみた文章・談話の構造』『国語学』194 国語学会
- 芳賀 綏（1962）『国語表現教室』東京堂
- 三尾 砂（1942）『話言葉の文法（言葉遣編）』帝国教育会出版部
- メイナード・K・泉子（1991）「文体の意味—ダ体とデスマス体の混用について—」『月刊言語』20-2 大修館書店

国立国語研究所「現代日本語書き言葉均衡コーパス」<https://pj.ninjal.ac.jp/>

（みねだ あけみ 日本語日本文学科）